

自然保育推進事業 活動報告書

1 団体名

ぼんぼこ山保育園 広島県庄原市東城町森149-2

2 令和4年度の活動概要

(1) 環境構成に関すること

① かまどづくり

ぼんぼこ山保育園の園庭にサポーターの皆さんが、空地に転がっていた自然石を運んできてくれました。早速、園庭の片隅に穴を掘り、この自然石を使って半円形のかまどとベンチをつくりました。

園児達は焚火をするために近くの山に行って木を拾い、その木を燃やして焚火をしました。今年の冬は特段に寒かったので、園児達は焚火を囲んで大喜びです。最後にマシュマロを焼いて食べました。今度ごはんを炊きたいと考えています。



② カブトムシハウスの設置

2年前に広島県立油木高等学校の生徒の皆さんの協力でカブトムシハウスを作りました。その後、カブトムシの幼虫が生まれても成虫になかなか育ちませんでした。これは原因としては腐葉土の水分不足やモグラなどに幼虫が食べられてしまったためと思います。

そこでカブトムシハウスを湿気の多い木陰に移動し、カブトムシの幼虫のいる腐葉土をコンテナに入れてモグラ対策を施しました。



今年のぼんぼこ夏祭りややわた自然保育園で、沢山のカブトムシを子ども達に捕まえて欲しいと期待しています。

③ どじょうの放流

昔は地域の川や池に沢山のどじょうやカワニナ、鯉、フナなどが見られましたが、最近ではまったく見られなくなりました。今年のぼんぼこ夏祭りではぼんぼこランドを流れる小川にどじょうを放流し、園児や保護者でどじょうすくいをしました。15cmを超える大きなどじょうを捕まえて大喜びする姿に、昔懐かしい風景を思い出しました。自然環境の保全は自然保育にとって欠かせない大切な環境整備です。



(2) 遊びの事例や子ども達の育ちに関すること

① どじょうすくい

ぽんぽこ夏祭りのイベントとしてどじょうすくいを行ないました。ぽんぽこランドの小川にどじょうを放流し、園児や保護者が網をもってどじょうを捕まえました。どじょうは川の土の中にもぐってなかなか捕まえることが出来ません。全身どろんこになってどじょうを捕まえていました。

浴衣を着て花火をしたり、模擬店で買い物をする夏祭りとは違った感動を味わうことが出来ました。

② 森の牧場の牛の世話

園児達は森の牧場まで1 kmの道を歩いて子牛の世話を何回も通い、子牛の餌やりをしました。子牛が美味しそうに餌を食べる姿を、子どもたちは、喜びながら見ていました。

とりわけ今年の冬は大雪でしたが、雪の中を長靴をはいて餌やりに通いました。子牛と園児たちの気持ちが通じ合い、園児が来ると子牛が駆け寄って来るようになりました。



③ 小左衛門踊り・樽御輿行進（伝統文化の継承）

今年のぽんぽこ夏祭りでは郷土の芸能や文化の継承活動として小左衛門おどりを体験しました。地域の人による太鼓と口説きにあわせて輪になって、保護者や地域の人々と一緒に見よう見まねで踊りました。

また、秋祭りで園児は樽御輿をかついで地域の家々を回りました。地域の人々は大喜びで、子どもたちにお菓子や飲物を配っていただきました。



(3) その他、自然体験活動の実施にあたって工夫したこと

① 先進保育園の視察

第1回自然保育推進交流会で広島大学付属幼稚園の園内フィールドや山口県の「うしのしっぽ」の自然保育を視察しました。先進的な自然保育の様子やフィールドを直接自分たちの目でみることによって「こんな活動をしたい」「こんな施設をつくりたい」という意見がでてくるようになりました。

② かまどづくり

保育士からかまど作りの要望が出されました。早速園庭にかまどが作られ、園児達はごはんを炊いておにぎりを作って食べました。今までの受け身の自然保育から、自分たちの周りの環境を工夫しながら、積極的に自然保育に取り組んでいます。